

【報道関係各位】

2025年6月吉日
株式会社奈良新聞社

書籍出版のご案内

道の駅大和路へぐり くまがしステーション 所長・中山 悟 著

『道の駅から地域創生 古都華の聖地・平群』

6月30日刊行

【～道の駅から始まる、奈良発「地方創生 2.0」実践録～】

奈良新聞社ではこのたび、道の駅大和路へぐりくまがしステーション 所長 中山 悟氏による書籍『道の駅から地域創生 古都華の聖地・平群』を、2025年6月30日に刊行いたします。

政府が「地方創生2.0」を掲げる中、地域経済やまちづくりの拠点として「道の駅」の可能性に着目し、現場で奮闘を続けてきた中山氏。コロナ禍を乗り越え、昨年度には開設以来過去最高の年間売上・集客数を記録。近年はこの道の駅を基軸に平群町の賑わいが多数のメディアでも紹介され、まちに好循環を生み出しています。

本書は、奈良県職員として45年にわたり地域行政に携わってきた中山氏が、奈良の地域資源と人財を活かした経営戦略をまとめた一冊であり、まさに「奈良の未来を創る手引書」とも言える内容です。

奈良新聞社はこれまで、奈良マラソン、平城遷都1300年祭ほか数々の県内主要イベントを手がけた中山氏への取材などを通じて、氏の奈良県への思いや仕事への熱意に触れてまいりました。今回の出版は、「本書が地域貢献の一助となれば」との中山氏の思いを受け、地元紙としても地域活性化のヒントと展望を発信する絶好の機会であると考えています。

つきましては、県政・経済記者クラブでの発表時には著者中山悟氏からの説明を調整しますので、報道関係者の皆さまにおかれましては、何卒ご取材賜りますようお願い申し上げます。



<著者のお問い合わせ先> 道の駅大和路へぐり くまがしステーション 所長 中山 悟
TEL：0745-45-8511 / 090-3721-3741 (携帯)
MAIL：s_nakayama@heguri-apc.jp

<本件に関するお問い合わせ先> 株式会社奈良新聞社 担当：向井
TEL：0742-32-2112 / 080-8920-3143 (携帯)
MAIL：h.mukai@nara-np.co.jp

出版のお知らせ

瞳啓 平素より大変お世話になり有難うございます。

このたび、拙著「道の駅から地域創生」を刊行しました。私が、道の駅「大和路へぐり」の運営に携わって、5年が経過しました。その間、令和2年に発生したコロナウイルス感染症拡大、その後のコロナ禍を乗り越え、持続的な経営の底上げを推進しています。

この間、奈良県職員時代からの経験と活動を活かして、全国の道の駅では例を見なかった推進戦略である「道の駅大和路へぐり未来プロジェクト」を策定し、着実な実行を積み重ねてきました。

同プロジェクト開始から5年目の令和6年度決算の年間売上額は、6億2千万円を超え、令和2年度比1.5倍になり、道の駅の創設以来の最高額と集客増加を共に達成しました。これによる経済波及効果は、地域全体へ及んでいる状況があります。

これまでの活動と成果は、地域活性化のヒントと展望を提起できるものであり、このノウハウを少しでも多くの皆様に参考として頂きたいと考え、私にできる社会貢献活動として、関係の皆様のご協力も得て、3年がかりで執筆に取り組み刊行にこぎつけました。

そして、今回の出版に際して、奈良県庁で共に仕事をした財務省主計局次長（元奈良県副知事）前田努様から「発刊に寄せて」のご寄稿を頂きました。

各メディアや地域振興に携わっておられる皆様におかれましては、ご関心を寄せていただける内容と思いますので、ご一読賜れば幸甚に存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

謹白

道の駅大和路へぐりくまがしステーション 所長

中山 悟

自費出版の概要

1. 書籍名 道の駅から地域創生 古都華の聖地・平群
2. 販売価格 2,200円(税込み)
3. 発行日 2025年6月30日
4. 著者 中山 悟 (なかやま・さとる)
5. 発行者 田中 篤則 株式会社奈良新聞社
6. 仕様等 283頁 四六判、並製本
表紙、裏表紙のみカラー、本文は白黒
7. 販売場所等 全国の主要書店、及び県内書店や道の駅「大和路へぐり」売店で
6月下旬頃から販売開始
8. プロフィール 別紙のとおり
9. 発刊に寄せて 財務省主計局次長 前田 努氏 別紙のとおり
10. 著書の構成(目次)
 - 序章 コロナ禍には負けない
道の駅「大和路へぐり」の賑わいと未来
 - 第1章 道の駅が頑張れば地域が変わる
道の駅「大和路へぐり」を地域振興の核に
 - 第2章 行政に新たな視点で挑戦
挑戦すれば奈良県の各地域が変化した
 - 第3章 「奈良力」が人を惹きつけ人の輪を広げる
コミュニケーションと人的ネットワークあればこそ
 - 第4章 丁稚修行は知見を育む
地域の人・地勢・情報発信力
 - 第5章 奈良の未来を創るために
人と組織の力が原動力
- 20のコラム情報 各章の理解を深めていただき分かり易く紹介

【プロフィール】

中山 悟 (なかやま・さとる)

道の駅「大和路へぐり」くまがしステーション所長

公益財団法人平群町地域振興センター理事

1953年、奈良県生まれ。1972年に奈良県職員採用後、農林部園芸農産課、総務部人事課、企画部文化課、企画課、地域振興課、農林部耕地課等を経て、2004年～奈良県文化国際課長、2008年～平城遷都1300年記念事業協会県内・広域事業部長、2011年～奈良県観光局長、2012年～奈良県地域振興部長、兼奈良県立万葉文化館館長、2013年～奈良県立美術館参与、奈良県文化会館参与、2017年～社会福祉法人奈良社会福祉院常務理事、2020年～道の駅「大和路へぐり」くまがしステーション所長に。コロナ禍を乗り越え、奈良県庁で培った行動と経験を生かし道の駅「大和路へぐり」の改革を行い、今は1年中、道の駅が賑わっている。奈良県の底力を活用し、「道の駅から地域創生」に挑戦している。

「発刊に寄せて」

財務省主計局次長（元奈良県副知事）

前田 努

「地方創生」と一口に言っても、まさに「言うは易く行うは難し」である。我が国揺籃の地であり、3つの世界文化遺産（「飛鳥・藤原の宮都」が4つめの世界文化遺産として、過日正式な推薦書がユネスコに提出された）を有する奈良県もその例外ではない。奈良公園には外国人を含め大勢の観光客が訪れているものの、それ以外の地域は多くの観光資源がありながら、地域おこしに十分結びつけられていないのが現状ではないだろうか。

そのような現状に安住することなく、古希を超えなお若者にも負けない旺盛な意欲で「道の駅から地域創生」に奮闘されているのが中山悟さんだ。私は奈良県庁で平成23年から4年間中山さんと机を並べて、本書でも紹介されている様々な仕事と一緒に取り組ませていただいた。その私の目に映った中山さんは、「行動の人」、「縁の人」そして限りない「奈良愛の人」ということになる。

「行動の人」、中山さんはまず手が、体が動く。それは個別の観光イベントであっても県庁の地域振興施策であっても、まず具体的なプランを自身で立案し（何と自作のイラストまで添えられている！）、関係者との調整をどんどん進めてしまう。我々は必死にその後を追いかけるのだが、素晴らしい結果が出る最後になって、ようやく中山さんに追いつくことになる。

「縁の人」、奈良の地で活躍した柳生宗矩は「小才は縁に出合って縁に気づかず、中才は縁に気づいて縁を生かさず、大才は袖すり合った縁をも生かす」という名言を遺したが、中山さんはまさに「大才」である。中山さんの多彩な人脈の一端は本書でも十分に窺われるが、私も県庁在勤中、そして今に至るまで、奈良県内各地で様々な分野の人を紹介していただいている。

「奈良愛の人」、我々は身の回りの地域資源が当たり前過ぎて、とかくその価値に気が付かないことが多い。私も自分の出身地である鎌倉の魅力については大仏と湘南の海くらいしか語れない。そんな私に「なら愛着ハイキング」で、これでもかと奈良の魅力を教えてくれたのが中山さんだ。この中山さんの限りない「奈良愛」こそが、言うまでもなく本書の中核になっている。

そんな中山さんが現在、道の駅「大和路へぐり」で大活躍されていると評判だ。現在、政府を挙げて取り組んでいる「地方創生2.0」の、まさに先行事例ではないか。その成功の背景を知るためにも、本書は奈良県内だけでなく、日本の各地で地方創生に取り組んでいる方々に、自信をもってお勧めできる1冊である。